

【酒田市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末と高速大容量ネットワークを中心とするICT環境を活用して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることで、主体的で対話的な深い学びの実現を目指す。

特に、デジタルの優位性を生かすことで、児童生徒が学習方法やツールなどを自分で選択し、多様な相手と協働しながら、主体的に学ぶことができる環境を整える。そして、すべての学習の基盤となる情報活用能力や、自己調整力の育成を目指す。

2. GIGA第1期の総括

令和3年度より、全児童生徒にタブレット端末（以下学習者用タブレット）を配備するとともに、全小中義務教育学校に、学習者用タブレットを接続するための新しいネットワークと無線接続環境を整備した。併せて、酒田市教育研修センター内に情報教育担当指導主事を配置して、センター方式で学校での利活用への支援や研修を行い、学習者用タブレットを中心としたICT教育を推進してきた。学習者用タブレットを配備した当初からデジタルドリル、デジタル学習支援ツールを導入したことで、スムーズなスタートを切ることができ、現在も各校で活用が進められている。教員による学習課題の提示・配信や振り返り・評価物の蓄積、児童生徒の学習成果物の作成、学び合いのツールとしての活用など、授業中の活用だけでなく、学習者用タブレットを家庭に持ち帰り、家庭学習や児童生徒一人一人が自らの課題を解決するツールとしても活用されている。また、市教育支援センターや校内教育支援センター、自宅からオンラインで授業へ参加、視聴ができる体制が各校で整えられ、不登校児童生徒や別室登校児童生徒への学びの保障が図られた。

しかし、学校や教員によって活用の頻度に差があり、さらなる活用の促進が課題となっている。

学習者用タブレットから市教育相談室に直接相談することができる「なやみ相談SOS」を市独自で構築し、児童生徒の悩みへの支援ができるようにした。学習のみならず、様々な場面での活用が進められている。

3. 1人1台端末の利活用方策

（1）1人1台端末の積極的活用

教員がＩＣＴ活用の目的を理解し、ＩＣＴ活用指導力を向上するための研修の機会を継続的に提供するとともに活用事例を蓄積し、教員間で共有することができるようシステムを整備していく。また、学校間で差のあった家庭での持ち帰り学習についても、事例の共有・蓄積により積極的な実施を推進する。

(2) 個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実に向けて

「児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」「教員と児童生徒がやり取りする場面」「児童生徒同士が考えを交流させる場面」「児童生徒が自分の理解度や進度に合わせて課題に取り組む場面」等において、学習者用タブレットが効果的に活用されるように、上記の研修、システム構築に加え、教員が情報交換する機会を充実させる。

(3) 学びの保障

不登校や別室登校の児童生徒に向けた授業のオンライン配信を継続するとともに、デジタルドリルや学習支援ツールを併用して効果的な活用を進める。

また、外国籍や特別な支援が必要な児童生徒においては、オンライン翻訳・辞書、音声認識・入力、カメラ記録など様々なコンテンツが、学びを支えるツールとなる。教員がこれらを受容、助言できるよう周知を図る。